

テーマ：イエス・キリストがどんなに優れた偉大なお方なのかを考える

●ルイザ・ステッド：

(“Tis so sweet to trust in Jesus”「イエスを信頼することはなんと絶えない喜びなのだろう」//聖歌「主と主のことばに」)
「イエスを信頼することはなんと絶えない喜びなのだろう。ただ主の言葉を信じ、その約束に身を委ね、『それゆえ主はこう仰せられる』と知ることは。イエス、イエス、私はどれほど信頼していることでしょうか。私は何度、主が信頼できるお方であると味わってきたことでしょうか。イエス、イエス、尊いイエス。どうかますます信頼できるよう恵みをお与えください。」(一番と繰り返しの歌詞)

「パウロのコロサイ人への手紙は、おそらく新約聖書の中で最もキリストを中心とした書簡です。…この手紙はキリストが最高位のお方であること、キリストの働きが信仰者にとって十分であること、キリストの支配がクリスチャン生活のあらゆる面に適用されることを明確かつ熱心に論じているのです。」(聖書注解者 スコット・ケルム他)

●歴史的背景：コロサイの教会を取り巻いていた状況：

※使徒 19:1, 9-10

「パウロは奥地を通過してエペソに来た。…毎日ツラノの講堂で論じた。これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。」



○挨拶の内に見られる三つの要素(1-2)：

1. 手紙の差出人：_____ (1)

※使徒 9:3-6

「ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならないことが告げられるはずです。」」

※使徒 9:15-16

「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」

※ピリピ 2:19-22

「しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって望んでいます。テモテのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者は、ほかにだれもないからです。だれもみな自分自身のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。しかし、テモテのりっぱな働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにして、彼は私といっしょに福音に奉仕して来ました。」

2. 手紙の宛先： _____ にいる兄弟姉妹(2a)

▷「聖徒」

「聖書的な意味での“聖徒”は、聖くなろうと努力しますが、その聖さがどんなに小さくても、どんなに大きくても、その人を“聖徒”にするわけではありません。聖徒とは、神様によって聖別された者なのです。」(ジェームズ・ボイス)

※2 コリント 5:21

「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。」

3. 挨拶の内容： _____ と _____ があなたがたにありますように(2b)

※ローマ 1:7

「ローマにいるすべての、神に愛されている人々、召された聖徒たちへ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上にありますように。」

※2 テモテ 1:2

「愛する子テモテへ。父なる神および私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。」

▷「恵み」

※「私たちは、この御子のうちにおいて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。」(エペソ 1:7)

※2 コリント 12:9

「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」

▷「平安」

※ローマ 5:1

「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」

※ヨハネ 14:27

「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」